

## 長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

### 税のある暮らし

長岡市立東北中学校

三年 渡邊 琳花

日本に税の制度は飛鳥時代の頃からあります。江戸時代までは農作物や布・絹を納めたり労働を税として国に納める仕組みでした。江戸時代からは田畑に課税される年貢が税の中心でしたが税収は不安定でした。そこで年貢をやめ所得税や法人税の仕組みが明治時代に作られました。昭和二十一年には三大義務の一つとして「納税の義務」が日本国憲法の公布により定められ平成元年になると消費税(三パーセント)が導入されました。税金を払うことは国民の義務だと知っていても税金に対して「嫌だな」と思うのが本心です。でもそう思ってしまうのは税のことを詳しく知らないからだと思います。そこで日本にはどのような種類がありどんな使われ方をしているのかを調べてみました。

税金には課税主体が国にある「国税」と地方公共団体である「地方税」があり国税には消費税、相続税、贈与税、地方税には住民税、事業税、固定資産税など合計約五十種類もの税金があります。また税金の使い道で一番多いのは「社会保障費」で年金、医療費、介護などがあり、二番目に多いのは国の借金を返すことや借金の利子を払うための「国債費」、三番目に多いの

は都道府県や市区町村へ配る「地方交付税交付金」であることが分かりました。調べていくうちに今自分があたりまえに生活できることがありがたいことだと思いました。税金には私達の生活を円滑に進めてくれる大事な役割があったのです。

私は中学二年生の秋に姉妹都市の交流事業に参加しアメリカを訪ねました。しかしその費用は普通に海外に行くよりも少し安く感じました。それは市税によって少し賄われているからと教えられ驚きました。もしそれが全て自費だったら両親は大変な思いをしていたと思います。私の知らないたくさんの人達が働いて納めた税金で貴重な体験ができたと思うと感謝でいっぱいになり、自分が払っている税金も誰かの役に立っていると思うと嬉しい気持ちになりました。税金を払わされていると考えずに払うことで誰かの役に立てると考えることで前向きにとらえることができました。

税金は思っている以上に自分の生活に大きく関わっています。まだ自分で稼いで税を払ったことはないけれど将来は自分で稼いで納税をします。その時は国民の未来を担う一人であることを自覚したいです。今は中学生ですが、社会に貢献できることはたくさんあります。私は次の二つのことに挑戦したいです。一つ目は日々の生活で健康管理をしっかりとしたり、周りをきれいにすることを心がけて税金の無駄を防ぐことです。二つ目は学校や地域でのボランティア活動に積極的に参加することです。まずは目の前のことから実行していきます。また、税金は誰かのためでもあり、自分のためでもあることを周りの人に伝えていきたいです。